やんばる水環境創出プロジェクト-沖縄の休日を体感する持続可能な流域マネジメント-実施団体:一般社団法人大宜味村観光協会



地域の特徴と活動背景

【地域の特徴】

- 平南川流域は重要な水源地であり、観光資源「ター滝」 を併せ持つ、沖縄県やんばる地域の重要な資源である
- ター滝は、開発の進んだ現在の沖縄県では、残された数 少ない「川遊びができる貴重な場」として認知されている

【地域課題】

- 来訪者増加に伴うゴミの放置や自然体験中の事故増加
- アメリカハグルマ等の侵略的外来植物の流入
- 村の子供たちの自然体験離れ

モデル事業の実施体制

実施主体 大官味村観光協会 大宜味村平南川流域 水循環計画準備会 ビジョンの策定会議 水辺のプレイフルインフラ、外来生物問題 □日本体育大学子どもの体研究所 □ 日本体育大学子どもの体研究所 □ 東京農工大学 □林業経済研究所 □ 国立環境研究所 □大宜味村役場企画観光課 生物・生態系環境研究センター □大宜味村役場建設環境課 □大宜味村教育委員会 水辺の体験学習 地域外の企業 教育現場の理解、指導者の育成 その他イベントやPR活動の支援 □大官味中学校 □よしもとエンタテイメント沖縄 □川に学ぶ体験活動協議会(RAC) □リコージャパン沖縄支社

沖縄県国頭郡大宜味村 平南川流域 9-滝





トレッキングコース

ター滝

R5年度モデル事業における取組内容および成果

現況把握・関係者調整

- 流域の現況調査、行政や専門家との合同現地踏査により、開発影響等を把握、各種団体と情報を 共有
- 先進地視察により、安全管理についての知見を導入



専門家同行による流域踏査



先進地視察倒木への対処

専門家視察・座談会

- 座談会等により方向性を明確化
- 子どもたちの育成のための環境づくりには、縦割りであった取組を横断的に進める必要性を確認
- やんばるの生物多様性は「里山」 が健全に保たれることにより守られ てきたことを再認識





座談会 水辺のプレイフルインフラ・外来生物問題

普及活動

- 育成機関の指導の下、中学生を 対象に水辺の体験学習を実施。 プレイリーダーの育成と教育現場の 理解取得
- リーフレット作成により、トレッキング コースでの安全管理、自発的なゴ ミ拾いの普及啓発を強化。







トレッキングコースリーフレット

水循環計画準備会の開催

- 流域水循環計画準備会を開催
- 村の観光課や建設環境課、教育 委員会と連携し、地域が一体と なって取り組むための指針を確認
- 大学や学術団体も一員とし、「ビジョン」と「取り組み事項」を決定

Ⅱ. 将来像~ビジョン~と目標設定	2.計算的定と数の課題の発品事業(第) おどかっては、ビリットは指示するための目的をすさえらに、重点課 を認知事業を変まする。このでは、特に社会性格の変化ようと呼ばれ場合 らとか信めらいる意気部底は利し、地域社会が一倍となり設定さらとが明 できまった。 単立を記述した。 重点課題と取扱や事業
1.将来像~ビジョン~	1.月遊びを通じた地域を知る機会の創造 1) 「か認めプレイシャインフラ」として学び ラインも達・地域と学剤(以 の関わりの消費数 2) 同の歌しるを安全に、安全開催を作成 (2) 同の歌しるを安全に、安全開催を作成 (2) 同の歌しるを安全に、子を発酵していた。
「"遊びのめがね"を育む、はじまりの場」	30 「子どものを図」アロジェクトへの参加 ・ 「中国・「中国・「中国・「中国・「中国・「中国・「中国・「中国・「中国・「中国・
切めてきて(ター滝に来て)感動した (中学1年生の声)	②企业組織の機関の機関 ○企业基準と、必要も加速と実務の所加 ②企業等を構成の機関 ご確保の指数とがあるとした外来機 が実現のを持える場合 企業のの分割を対して対象 企業を対象があるとしたが、を検
準備会で決定した ビジョンと取り組み事項	・ サルルカンド・シの出サーデー・デー・デー・ション となった リー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今後の課題および 取組方針

- 「こどもまんなか」を基本とし、子どもたちが遊びを通じて地域の魅力を体感し、成長した際に原風景として記憶に残る体験を目指す
- 流域マネジメントに向けて、ビジョンの取りまとめ、推進体制の構築を行い、流域水循環計画の策定を目指す
- 人材育成や環境調査を継続しながら、国立公園を自然体験の場として活用することで自然環境保全と利用の両立を目指す。